

設立趣旨書

1. 趣旨書

日本人にとってのインドとは、日本文化の形成に古代から大きな影響を与え続けた仏教の起源としての天竺であり、現代に至ってはヨガなどのスピリチュアルな文化で人気の観光地でもある。カレーと総称される香辛料を効かせたインドの煮込み料理は日本の国民食となっている。少し学識に詳しい者であれば、第二次世界大戦においてインドの反英闘争を日本軍が支援したインパール作戦や、戦後の東京裁判において日本を擁護したパール判事の存在を思い浮かべるかもしれない。その他にも、日本を盟主にアジアが連帯して西洋列強に対抗するというアジア主義の思想に大きな役割を果たしたとされる岡倉天心(1863-1913)は、英領インドの思想家であったヴィヴェーカーナンダ(1863-1902)と交流があったと言われており、日本に亡命していたインド独立の志士ボースが匿われていた中村屋は現在でもインドカレーの老舗として知られている。そして日本画家の横山大観(1868-1958)や菱田春草(1874-1911)から影響を受けたタゴール(1861-1941)とその弟子たちは、ベンガル派と呼ばれる近代インドの代表的な画派を形成した。

以上のような言わば日本人にとっての伝統的なインド観は、近年のインドの台頭で変更を余儀なくされている。1990年代における経済開放以後のインドは成長が著しく、自動車産業やIT産業、製薬業界などが経済発展を牽引し、農村が広がる発展途上国としてのインド像はもはや過去のものになりつつある。インドの人口は2023年に中国を超えて世界一となった。同年にはドルベースの名目GDPで旧宗主国のイギリスを抑えて世界5位となり、2025年には日本とドイツを抜いてアメリカ、中国に次ぐ世界第3位となると予想されている。インドはアメリカ、オーストラリア、日本とともにQUADの構成国であり、インド太平洋における日本の安全保障上の重要なパートナーでもある。自他共に認めるグローバルサウスの代表格としてもインドの影響力は今後も高まる一方である。文化面においても、ボリウッドと呼ばれるインド映画と作中で披露される踊りは世界的なブームとなっている。

インド文化芸術振興機構は、このような新しいインド像を日本の人々に発信し、相互の交流の促進と日印関係の持続的発展に貢献するために設立する。特に行政の手が及ばない草の根レベルの交流を実現し、民間ならではの文化交流活動を行う。

2. 設立に至るまでの経過

2023年10月 前身となる任意団体「インド芸術文化推進機構」が設立される。

2024年8月 インド芸術文化推進機構の法人化について協議が始まる。

2024年10月 特定非営利活動法人インド文化芸術振興機構の創立総会を開催する。

2024年11月 福岡市役所に設立申請を行う。

2024年10月6日 特定非営利活動法人 インド文化芸術振興機構

設立代表者 氏名 池田 篤史

設立代表者 氏名 クマル・ダルメンドラ